

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (15)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様」の掲載文や映像をこらなくください。

注本文中、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青色」で、サンクチュアリ教会側および郭グループ側の主張は「茶色」で色分けしています。

【28】二〇二二年一月十九日の「宣布式」の真相

当連載の第四回で扱った問題ですが、サンクチュアリ教会側の人は、「二〇二二年一月十九日の訓読会で、真のお父様は、真のお母様を否定され、『皆、お母様と一団となって違う道を行っている』、『私は今独りだ、息子も娘もいない』と語られた。お母様は、お父様と『最終一体』になっていると言いたい」と述べ、真のお母様を批

判します。この批判はメモ情報に基づく不正確で悪意のあるものですが、この訓読会で、真のお父様は次のように「宣布」しておられます。【写真1】

「中国と(旧)ソ連が、これから問題です。それを一つにするのは、おまえたがしなけれなりません。分かりましたか。おまえたが果たすべき責任ですが、おまえたができないので、このような条件をすることによって、霊界が代わりに、このような式をしてあげることによ



よって、お母様が前に立つようになれば、全部、従って、お母様がするとおりについていけば簡単なのです。私、お父さんの心配、今やお母様に対する心配はする必要がないのです。……さあ、天地に、この日を期して、完全に統一、一体圏を、真の父母と共に、子女たちと共に、全世界が一つになって成立した条件をお祝いいたします。ありがとうございます。敬拝。拍手。

真の父母の名前で、聖婚、完結完成、解放圏が勝利の条件を立てて、自由に、天に飛んでいきなさい！アーヂュー！」

この宣布式は、まず真のお母様を先頭に立て、後ろに石俊

氏、尹晶老氏、黄善祚氏、金孝律氏の四人を立たせて行われ【写真2】、その後、真のお父様の横にお母様が立たれ、四人の向きを変えて行われました。【写真1】この宣布は、当時、郭グループを中心とする教会体制がお父様の願いに一致することができず動いているのを、お父様がお知りになり、その問題に対して、お母様を厳しく叱責して収められたものです。

この宣布は、真のお父様が「お母様が前に立つようになれば、全部、従って、お母様がするとおりについていけば簡単なのです。……お母様に対する心配はする必要がないのです」と語っておられることで分かるように、どこまでも真のお母様を前に立てて宣布しておられるものです。サンクチュアリ教会側の人

私たちが知っておかなければならないことは、子女であるカイン・アベルは真のお母様を中心にして、まず「真の母」につながり、それから「真の父」に連結していかなければならない原理原則がある点です。前回、前々回で述べたように、世界平和統一家庭連合時代は「長子と次子は母親の名のもとに絶対服従しなければならないのです。服従するようになれば父と連結します」(『主要儀式と宣布式III』一五一ページ)、「あなたたちカインとアベルがお母様の言葉に絶対服従しなければなりません」(『ファミリー』二〇〇八年六月号、三〇ページ)というものであり、子女は「真の母」を通じて、「真の父」に連結されなければなりません。この原則は、祝福家庭にも当てはまり、真のお父様は「お母様を中心としてカイン(祝福家庭)・アベル(真の子女)が一つにならなければなりません。お母様と一つにな

らねばならないのです。そう、てこそ先生と一つになるのです。霊界もそうであり、地上もそうです。先生と、神様と、です」(マルスム選集二六五―三二〇)と語っておられます。顯進様の場合、「真の母」を通じて「真の父」に連結される原則から外れたため、真のお父様はその活動をお受けになることができませんでした。しかし、以前の國進様、亨進様は、自分たちの活動を真のお母様に報告し、「真の母」を通じて「真の父」に連結されていたため、お父様はその活動を祝福されました。今起こっているサンクチュアリ教会問題は、以前のとくと違って、國進様や亨進様が「真の母」と一体となっておられないことが問題なのです。

さて、当時、子女様を通じて日本に伝達されていた情報に、二〇二二年一月二十三日(第四十五回「真の神の日」)に三度目の聖婚式(神様の結婚式)が



「神様の結婚式」から「天地人真の父母様九十三聖誕金婚および禧年・古稀」という名称になりました」と解説しています。

「KMS中和新聞」(通巻四四六号)の「今日の摂理解説」は、「当初、天基三年天曆一月一日午前十時より『天地人真の父母様聖婚式(神様の結婚式)』を予定し、準備を進めて

いましたが、このたびは延期され、二〇一三年一月十三日の『基元節』に合わせて執り行うことになりました。それゆえ、天曆一月一日午前十時の式典は……『天地人真の父母様九十三聖誕金婚および禧年・古稀』という名称になりました」と解説しています。

十三聖誕金婚および禧年・古稀」に名称変更された式典は、真のお母様が結婚式で着るような白い洋服を召され、子女様がサポートなさる中、天曆一月一日午前十時から挙行されました。【写真3、4】

いわゆる「郭グループ」側が最近、日本で集会を行って配布している書籍には、「文亨進ら統一教会は、二〇二二年一月二十二日『真の父母誕生日』に韓鶴子と神様の結婚式があると宣伝してきたが、創始者の反対により取消しとなったという噂が広まった。一月十九日と二十一日、創始者が韓鶴子を責めた理由が、創始者の許可なしに進めてきた韓鶴子と神様の結婚式である可能性が高い」(二〇〇―二〇一ページ)とあります。この情報はうわさに基づくために不正確であり、正しくは一月二十三日に行う予定であると子女様を通じて伝えられていた真のお父様と真のお母様による「三度目の聖婚



9 この一連の流れだけでなく、統一教会から家庭連合の時代

が分かります。この一連の流れだけでなく、統一教会から家庭連合の時代

「真の母」を通じて「真の父」につながるという原理原則があるため、子女が天の願いにそぐわないとき、真のお父様は子女

私たちには、いかなる状況にあっても人の悪口を語られず、一言も弁明されずに、信仰と感謝で生きてこられた真のお母様の内的姿勢を相続し、似た者とならなければなりません。

【写真9】
二〇一二年一月十九日の訓誡会での真のお父様の叱責および四人を立てて行った「宣布式」から始まる一連の流れが「お母様の反逆の始まりである」と主張します。しかし、事の真相を知ってみれば、お父様の叱責は真のお母様に対し向けられていたものではなく、子女様および祝福家庭に向けられていた事実

「真の母」を中心にかイン・アベルが一つになるとい原則から見たとき、当時の國進様と亨進様（アベル）の活動に対して快く思わず、子女様と祝福家庭（カイン）の間で、不協和音

「伝統的に『ため』に生きる愛をもった代表的な女性を探してみると、お母様がすべての面において一致するので選んだのです。文総裁の目は偽物ではありません。……心が美しいので、顔が美しいのです。心が美しいので、声も美しく、姿も優雅なのです」（真の御父母様の生涯路程⑩「五三ページ」）

お母様のほうが先生をもっと信じています。統一教会の皆さんが私を信じるよりも、お母様のほうがもっと私を信じているのです。あらゆる面において尊敬しているということを知らなければなりません」（同、四九一〜四九二ページ）

【写真5】、次のようにみ言を語って叱責されました。

「國進、亨進が責任者ではありません。彼らも私が分からな

「父が始めねばなりません。……天地人真の父母が中心であ

「先生には十四人の息子、娘がいますが、皆、似ています。……性格も似ています。誰の言葉も聞きません。どれほど頑固か。聖進が代表であり、國進が代表であり、その次には亨進が代表で、その息子、娘も代表です」

「真のお父様の願いは「三度目の聖婚式」を二〇一三年天曆一月十三日の基元節に行うというもので、二〇一二年一月二十三日ではありません。それを約一年早めて挙行しようとしたところに問題があったのです。



「お父様は、愛を征服し、復帰するために来ました。そして、それは神様に対する心情復帰でもあります。それこそ、愛の十字架でした。しかし、お母様は、このような困難を経ながらも、ただの一言も弁明しませんでした。お母様自らその苦難の意味を悟って忍耐し、ついに勝利したのです」（天一国經典「真の父母経」二〇一〜二〇二ページ）

「真の母」を中心にかイン・アベルが一つになるとい原則から見たとき、当時の國進様と亨進様（アベル）の活動に対して快く思わず、子女様と祝福家庭（カイン）の間で、不協和音

「父が始めねばなりません。……天地人真の父母が中心であ

「先生には十四人の息子、娘がいますが、皆、似ています。……性格も似ています。誰の言葉も聞きません。どれほど頑固か。聖進が代表であり、國進が代表であり、その次には亨進が代表で、その息子、娘も代表です」

「先生には十四人の息子、娘がいますが、皆、似ています。……性格も似ています。誰の言葉も聞きません。どれほど頑固か。聖進が代表であり、國進が代表であり、その次には亨進が代表で、その息子、娘も代表です」